

## コラム

生産性向上人材育成支援センター利用企業の声  
・・・(株)伊藤製作所

## 【利用事業主の概要】

(株)伊藤製作所(三重県四日市市)

- ・事業内容 : 順送プレス金型による自動車部品製造等
- ・利用コース名 : 生産性向上支援訓練
  - ①「DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入」
  - ②「ITツールを活用した業務改善」
- ・利用時期 : 2022年7月～8月
- ・受講者数 : ①15名 ②15名

## 【利用事業主の声】

当社は、2017年からプレス加工のIoT化や業務デジタル化に取り組んでおり、2022年からは金型専用工場にて金型製作のデジタル化を推進し、自動車向け金型における付加価値の創出に取り組んでいる。

当社の課題は、事業方針として数年前からデジタル化推進を掲げているものの、経営層や一部の社員による部分的な推進に留まっていることにあった。一般社員にも「デジタル化でどのようなことができるのか」「どのような業務効率化が図れるのか」といったイメージを共有してもらい、全社的なデジタルスキルの底上げを図りたいと考えていた。そこで、

ポリテクセンター三重の生産性向上人材育成支援センターに相談したところ、一般社員向けにはDXの基礎が学べる内容を、経営層向けにはデジタルによる業務改善や推進が学べる内容を盛り込んだカリキュラムの提案を受け、2コースの生産性向上支援訓練を受講させることを決めた。

受講させたことで、一般社員が「DXにより業務改善や効率化が可能である」との気付きを得て、個々人のデジタル化による業務改善が始まった。取組意欲を引き出してくれる非常に良い機会となったと感じているので、今後も生産性向上人材育成支援センターを利用した人材育成を継続したいと考えている。そして、社内の業務系アプリケーションのクラウド移行や設備のリモート監視にも着手する等、引き続き生産性向上に取り組んでいきたい。

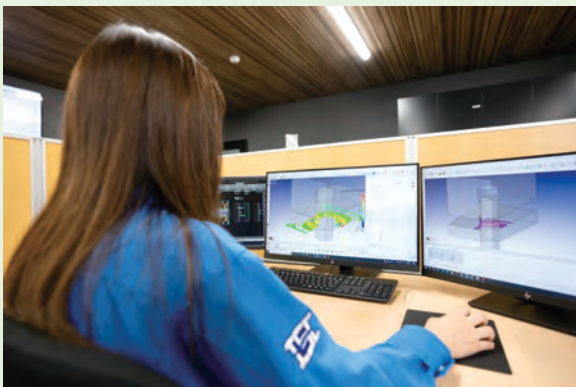
## 【受講者の声】

受講した訓練はグループワークの時間が多く、ディスカッションを通じて社内のコミュニケーションが深く図れた。今後業務を進めるに当たって有効であったと感じている。

受講前は、会社がデジタル化推進を掲げている中で個人の知識や理解が追い付いていない部分があったが、受講を通して「DXとは何なのか」を非常によく理解することができた。また、クラウド、IoT、RPA、メタバース、AI等最新のITツールがどのような現場で活用されているかを学び、自社のどの業務をデジタル化すべきか、何から始めるべきかを明確にすることができた。これからは日々のルーチンワークにクラウドやAIの活用を検討し、業務効率化を図っていきたい。



写真：金型専用工場「テクニカルセンター」



写真：デジタル化のために導入したCAE(Computer Aided Engineering)



写真：デジタル化のために開発したIoT機器